

遺跡No	次	遺構種別	遺構N	時期	説明	形態	主軸	長さ	幅	深さ	付属施設	出土遺物
60-018	006	竪穴建物跡	0001	古墳時代	調査区内の西側に位置し、一部調査区外へ延びる。1号土坑に切られる。壁はまっすぐ立ち上がる。壁溝は一部で確認され、北側では幅25～30cm、建物床面からの深さ5cmである。東側では幅25～35cm、建物床面からの深さは5cmである。建物に伴うか不明だが、建物内にピットが8基確認された。P1は円形で深さ18cm、P2は楕円形で深さ13cm、P3は円形で深さ12cm、P4は円形で深さ25cm、P5は楕円形で深さ6cm、P6は楕円形で深さ12cm、P7は楕円形で深さ8cm、P8は楕円形で深さ8cmである。	隅丸方形	—	4.70	3.25	0.15	—	土師器坏・甑・壺・壺、須恵器蓋、砥石、円筒埴輪破片
60-018	006	竪穴建物跡	0002	古墳時代	調査区内の北東に位置し、一部が調査区外に延びる。5号竪穴建物跡を切り、3号・4号竪穴建物跡、2号土坑、1号井戸跡に切られる。床面は平坦である。南壁は外に広がりながら立ち上がり、それ以外の壁はまっすぐ立ち上がる。壁溝は一部で確認され、北側では幅20cm、建物床面からの深さ6cmである。	隅丸方形	W-43° -S	5.00	4.35	0.22	カマド	土師器坏、土師質小皿・焙烙破片、陶器・天目茶碗破片
60-018	006	竪穴建物跡	0003	古墳時代	調査区内の北側に位置し、一部が調査区外へ延びる。2号・4号竪穴建物跡を切る。床面はほぼ平坦で、壁はやや斜めに立ち上がる。	隅丸方形	E-73.5° -S	3.57	0.97	0.14	カマド	土師器坏・皿、土師質小皿
60-018	006	竪穴建物跡	0004	古墳時代	調査区内の北東に位置し、一部が調査区外へ延びる。2号・3号竪穴建物跡、4号竪穴建物跡、1号井戸跡、2号土坑に切られる。床面はほぼ平坦で、壁はまっすぐ立ち上がる。壁溝は一部で確認され、幅20cm、建物床面からの深さ10cmである。建物に伴うか不明だが、建物跡内でピットが2基確認された。P1は楕円形で深さ36cm、P2は楕円形で深さ7cmである。	方形	—	5.10	3.80	0.20	—	土師器坏・鉢・壺
60-018	006	竪穴建物跡	0005	古墳時代	調査区内の北東に位置し、一部が調査区外へ延びる。2号竪穴建物跡、3～6号土坑に切られる。平面形態は調査範囲からは不明である。	—	—	3.75	2.05	0.25	—	土師器坏、土師質小皿、灰釉陶器破片、陶器・天目茶碗破片
60-018	006	井戸跡	0001	中世	調査区内の東側に位置し、一部は調査区外へ延びる。2・4号竪穴建物跡を切る。	円形	—	3.20	1.70	0.85	—	土師器坏・高坏・皿・甑・台付甑、瓦質片口鉢破片、平瓦破片

60-018	006	土坑	0001	古墳時代	調査区内の南側に位置し、一部は調査区外へ延びる。1号竪穴建物跡を切る。	不整形	—	1.57	1.07	0.44	—	土師器坏・甕・壺
60-018	006	土坑	0002	近世	調査区内の中央に位置する。2・4号竪穴建物跡を切る。	円形	—	1.50	1.50	0.46	—	かわらけ、焙烙破片、瓦質土器破片、陶器・織部皿破片、縄文土器片
60-018	006	土坑	0003	近世	調査区内の北東に位置し、一部は調査区外へ延びる。5号竪穴建物跡を切る。	長方形	—	1.40	0.55	0.10	—	陶器・天目茶碗破片、縄文土器片
60-018	006	土坑	0004	—	調査区内の北東に位置し、5号竪穴建物跡を切る。	不整形	—	0.95	0.75	0.33	—	土師器甕、縄文土器片
60-018	006	土坑	0005	—	調査区内の北東に位置し、一部は調査区外へ延びる。5号竪穴建物跡を切る。	不整形	—	2.00	0.60	0.25	—	—
60-018	006	土坑	0006	近世	調査区内の北東に位置し、一部は調査区外へ延びる。2・5号竪穴建物跡を切る。	不整形	—	1.20	1.05	0.36	—	焙烙破片
63-008	013	竪穴建物跡	0001	古代	調査区の北部に位置し、一部調査区外に広がる。周溝は南壁から西壁にかけて確認され、カマドが位置する東壁以外を巡るものと想定される。柱穴は建物の南東隅で1基確認されたが、そのほかには明確な痕跡は検出されなかった。建物南壁沿いに遺物がやや集中しており、底部に墨書「八」と書かれた土師器坏が3個体、口縁部をわずかに欠損するものの、ほぼ完形の壺Gが出土した。	隅丸長方形	E-7° -S	3.90	3.30	0.48	カマド	土師器坏・甕・脚付甕、須恵器坏・高台碗・高台付瓶・蓋・壺、白磁

63-008	013	溝	0001	古代	第13次調査区および第14次調査区の東部に位置し、南北に延びる。直線的に延びる溝で、南北調査区外にそれぞれさらに広がる。溝の底面両端が側溝状に凹み、中心部は部分的にやや硬化する。この特徴をもつ遺構は、本調査地点から約120m北側に位置する第8次・11次・12次調査でそれぞれ確認され、特に第12次調査SD1は、南北に長い調査区の南端から北端まで約80mの範囲で検出された。12次調査SD1北端付近は、台地縁辺に向かって、蛇行しながら緩やかに下る道路遺構の可能性も考えられる。	—	N-20° E	7.10	2.38	0.21	—	—
63-008	013	ピット	0001	—	—	円形	—	0.36	0.36	0.24	—	—
63-008	013	ピット	0002	—	—	楕円形	—	0.45	0.33	0.06	—	—
63-008	013	ピット	0003	—	—	楕円形	—	0.24	0.24	0.36	—	—
63-008	013	ピット	0004	—	—	楕円形	—	0.66	0.54	0.18	—	—
63-008	013	ピット	0005	—	—	円形	—	0.25	0.20	0.15	—	—
63-008	013	ピット	0006	—	—	不整形	—	—	0.30	0.15	—	—
63-008	013	ピット	0007	—	—	不整形	—	—	0.30	0.30	—	—
63-008	013	ピット	0008	—	—	不整形	—	0.54	0.39	0.36	—	—
63-008	013	ピット	0009	—	—	—	—	—	—	0.36	—	—
63-008	014	溝	0001	古代	第13次調査区および第14次調査区の東部に位置し、南北に延びる。直線的に延びる溝で、南北調査区外にそれぞれさらに広がる。溝の底面両端が側溝状に凹み、中心部は部分的にやや硬化する。この特徴をもつ遺構は、本調査地点から約120m北側に位置する第8次・11次・12次調査でそれぞれ確認され、特に第12次調査SD1は、南北に長い調査区の南端から北端まで約80mの範囲で検出された。12次調査SD1北端付近は、台地縁辺に向かって、蛇行しながら緩やかに下る道路遺構の可能性も考えられる。	—	N-20° E	6.10	2.38	0.21	—	—
63-008	014	ピット	0001	—	主に3か所の分布がみられ、調査区北東部のピット列(P3～P5、P12)、南東部ピット群(P7～11)、竪穴建物跡周辺に散在するピット群(P6、P13～15)が確認された。	—	—	0.24	0.24	0.30	—	—
63-008	014	ピット	0002	—	主に3か所の分布がみられ、調査区北東部のピット列(P3～P5、P12)、南東部ピット群(P7～11)、竪穴建物跡周辺に散在するピット群(P6、P13～15)が確認された。	—	—	0.24	0.24	0.30	—	—
63-008	014	ピット	0003	—	主に3か所の分布がみられ、調査区北東部のピット列(P3～P5、P12)、南東部ピット群(P7～11)、竪穴建物跡周辺に散在するピット群(P6、P13～15)が確認された。	—	—	0.30	0.30	0.36	—	—

63-008	014	ピット	0004	—	主に3か所の分布がみられ、調査区北東部のピット列(P3～P5、P12)、南東部ピット群(P7～11)、竪穴建物跡周辺に散在するピット群(P6、P13～15)が確認された。	—	—	0.36	0.30	0.54	—	—
63-008	014	ピット	0005	—	主に3か所の分布がみられ、調査区北東部のピット列(P3～P5、P12)、南東部ピット群(P7～11)、竪穴建物跡周辺に散在するピット群(P6、P13～15)が確認された。	—	—	0.66	0.48	0.54	—	—
63-008	014	ピット	0006	—	主に3か所の分布がみられ、調査区北東部のピット列(P3～P5、P12)、南東部ピット群(P7～11)、竪穴建物跡周辺に散在するピット群(P6、P13～15)が確認された。	—	—	0.72	0.60	0.24	—	—
63-008	014	ピット	0007	—	主に3か所の分布がみられ、調査区北東部のピット列(P3～P5、P12)、南東部ピット群(P7～11)、竪穴建物跡周辺に散在するピット群(P6、P13～15)が確認された。	—	—	0.36	0.30	0.30	—	—
63-008	014	ピット	0008	—	主に3か所の分布がみられ、調査区北東部のピット列(P3～P5、P12)、南東部ピット群(P7～11)、竪穴建物跡周辺に散在するピット群(P6、P13～15)が確認された。	—	—	0.42	0.42	0.36	—	—
63-008	014	ピット	0009	—	主に3か所の分布がみられ、調査区北東部のピット列(P3～P5、P12)、南東部ピット群(P7～11)、竪穴建物跡周辺に散在するピット群(P6、P13～15)が確認された。	—	—	0.72	0.30	0.36	—	—
63-008	014	ピット	0010	—	主に3か所の分布がみられ、調査区北東部のピット列(P3～P5、P12)、南東部ピット群(P7～11)、竪穴建物跡周辺に散在するピット群(P6、P13～15)が確認された。	—	—	—	0.60	0.36	—	—
63-008	014	ピット	0011	—	主に3か所の分布がみられ、調査区北東部のピット列(P3～P5、P12)、南東部ピット群(P7～11)、竪穴建物跡周辺に散在するピット群(P6、P13～15)が確認された。	—	—	0.48	0.48	0.54	—	—

63-008	014	ピット	0012	—	主に3か所の分布がみられ、調査区北東部のピット列(P3～P5、P12)、南東部ピット群(P7～11)、竪穴建物跡周辺に散在するピット群(P6、P13～15)が確認された。	—	—	0.36	0.30	0.36	—	—
63-008	014	ピット	0013	—	主に3か所の分布がみられ、調査区北東部のピット列(P3～P5、P12)、南東部ピット群(P7～11)、竪穴建物跡周辺に散在するピット群(P6、P13～15)が確認された。	—	—	0.36	—	0.24	—	—
63-008	014	ピット	0014	—	主に3か所の分布がみられ、調査区北東部のピット列(P3～P5、P12)、南東部ピット群(P7～11)、竪穴建物跡周辺に散在するピット群(P6、P13～15)が確認された。	—	—	0.42	—	0.24	—	—
63-008	014	ピット	0015	—	主に3か所の分布がみられ、調査区北東部のピット列(P3～P5、P12)、南東部ピット群(P7～11)、竪穴建物跡周辺に散在するピット群(P6、P13～15)が確認された。	—	—	0.30	0.30	0.60	—	—
60-126	001	竪穴建物跡	0001	古代	A区の東部に位置し、建物の大部分は調査区外に広がるので詳細は不明である。	隅丸長方形	E-12° - S	3.66	2.84	0.48	—	土師器坏・甕・高坏、須恵器坏・高台坏・蓋・甕・大甕・壺、土錘
60-126	001	竪穴建物跡	0002	古代	A区の北西部に位置し、建物の大部分は調査区外に広がるので詳細は不明である。	隅丸長方形	E-11° - S	3.47	3.31	0.83	—	土師器坏・高坏・甕、須恵器坏・高台坏
60-126	001	竪穴建物跡	0003	古代	A区の中央部に位置し、2号竪穴建物跡と重複する。建物の大部分は調査区外に広がるので詳細は不明である。	—	—	2.29	1.04	0.82	—	—
60-126	001	溝	0001	古代	調査区の西端に位置し、北側は3号土坑と重複し、東西は調査区外に広がるため、詳細は不明である。上端の幅は約80cm、下端の幅は約61cmである。	—	E-30° - S	2.40	0.80	0.45	—	土師器坏・甕、須恵器高台坏・大甕

60-126	001	溝	0002	古代	調査区の西端に位置し、遺構の大部分が調査区外に広がるため、詳細は不明である。上端の幅は約80cm、下端の幅は約61cmである。	—	E-30° - S	2.40	0.80	0.60	—	土師器坏・甕・台付甕、ロクロ土師器坏、須恵器坏・高台坏・甕・大甕
60-126	001	土坑	0001	古代	A区の西端に位置し、2号竪穴建物跡と重複する。	不整楕円形	—	1.26	0.64	0.24	—	土師器甕
60-126	001	土坑	0002	古代	A区の中央部に位置する。	楕円形	—	1.10	0.57	0.06	—	土師器甕
60-126	001	土坑	0003	古代	A区の西部に位置し、SD1と重複する。	隅丸長方形	—	4.60	0.94	0.29	—	土師器坏・甕、手付瓶、須恵器坏・高台坏・大甕
60-126	001	土坑	0004	古代	B区に位置し、調査区西側に広がり、詳細は不明である。	楕円形	—	1.18	0.24	0.25	—	—
60-126	001	ピット	0001	古代	A区西部に位置する。	—	—	0.62	0.62	0.24	—	—
60-126	001	ピット	0002	古代	B区中央に位置する。	—	—	0.48	0.48	0.13	—	—